

第1学年 算数科学習指導案

単元名「たしざん」

学 年 第1学年 4名
授 業 者 ○○ ○○
学習会場 1・2年教室
日 時 令和2年10月6日(火) 5校時

1 単元の設定について

単元について

本単元は、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方について理解し、それらを用いる力を育てる。これまで10の合成・分解、加法が用いられる場合やその意味、1位数どうしの加法計算、2位数+1位数（繰り上がりなし）の加法計算について学習している。これらの既習の数の見方や計算の意味を活用することで、未習の計算の仕方を既習の整数の計算方法に帰着させて考える力を育てていく。

学習前の子ども

【資質・能力面】

(表現力にかかわって)

- ・算数の学習に意欲的である。
- ・発表が積極的である児童が多い。
- ・リーダーを中心とした学習をすすめようとしている。
- ・学習規律や姿勢がくずれる場面が見られる。
- ・友だちの意見をあまり聞かず、自分の考えのみを発言する場合がある。

【内容面（知識・理解・先行経験）】

- ・計算に意欲的に取り組むことができる。
- ・加法計算の意味理解に、個人差がある。

学習後の子ども

【資質・能力面】

- ・学習リーダーを中心にした主体的な学習ができる。
- ・自分の考えを、分かりやすく説明することができる。
- ・友だちの意見を静かに聞き、自分の考えと比べて考えることができる。
- ・学習規律が整い、落ち着いて学習ができる。

【内容面（知識・理解・経験）】

- ・繰り上がりに気を付けて、確実な加法計算を行うことができる。
- ・計算の仕方を自分の言葉で説明することができる。



育てたい表現力とその手立て

○具体物や絵などを活用し、自分の考えを分かりやすく説明する力を育てる。

- ・主体的に学習へ取り組む態度を育成するため、学習規律を定着させるとともに、学習リーダーを中心に学習させる。
- ・これまでの既習内容を活用しながら学習を進めさせる。
- ・具体物や絵を使い、友だちに自分の考えが伝わるように発言させる。
- ・ノート整理の仕方を教え、丁寧にノートができるように指導する。
- ・友だちの考えをしっかりと聞かせ、自分の考えと比べながら聞かせる。
- ・数学的活動を通して、学習内容の確実な理解につなげる。

2 単元の目標

○1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

- ・ 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が、「10といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。【知・技】
- ・ 10のまとまりに着目し、1位数どうしの加法計算の仕方を、操作や図を用いて考え表現している。【思・判・表】
- ・ 1位数どうしの加法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。【態度】

3 単元計画（全10時間、本時 2/10）

次	時	学 習 内 容	主な評価規準
一 9 + 4 の け い さ ん	1	「10といくつ」という数の見方に着目し、 $9+4$ の計算の仕方（加数分解）を考える。	【態度】 既習の加法計算の学習や数の見方を基に、1位数どうしの加法計算の仕方を考えようとしている。
	1	被加数が9の場合の計算（加数分解）をする。 【本時】	【思・判・表】 10のまとまりに着目し、1位数どうしの加法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、説明している。
	1	「10といくつ」という数の見方に着目し、被加数が8や7の場合の計算の仕方（加数分解）を考える。	【思・判・表】 被加数が8～6の場合でも、10のまとまりをつかって計算すればよいことを考え、説明している。
	1	被加数が9～6の場合の加法の計算練習や文章題をする。	【知・技】 加法分解に計算が確実にできる。
二 3 + 9 の け い さ ん	1	「10といくつ」という数の見方に着目し、 $3+9$ の計算の仕方（被加数分解）を考える。	【思・判・表】 被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、操作や図によって説明している。
	1	1位数どうしの繰り上がりのある加法の計算練習、文章題をする。	【知・技】 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算は、10のまとまりをつくれればよいことを理解し、その計算ができる。

三 か あ ど れ ん し ゅ う	3	計算カードを使った、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の練習をする。	<p>【知・技】 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。</p> <p>【思・判・表】 計算カードの並び方について、被加数が1増えると加数は1減る、という関数的な見方に気づき、数の関係を説明している。</p>
四 ま と め	1	学習内容の習熟・定着（たしかめよう）	<p>【思・判・表】 単元の学習を活用して、問題の解決の仕方を考え説明している。</p> <p>【知・技】 基本的な問題を解決することができる。</p> <p>【態度】 単元の学習で考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じている。</p>

4 学習活動

(1) 本時のねらい

○ 1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法（加数分解）を理解する。

(2) 本時の評価規準

○ $9 + 4$ などの計算の仕方を、数の見方（10といくつ）を活用して、操作や図を用いて考え説明している。【思・判・表】

(3) 準備物

・どんぐり ・ホワイトボード ・数図ブロック

(4) めざす児童の表現力（評価基準B）

ホワイトボード、ノート例

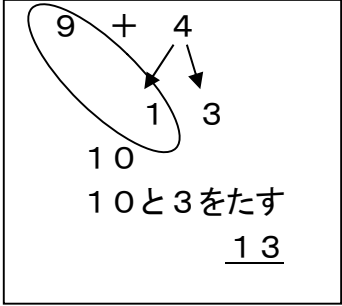
The whiteboard shows the calculation $9 + 4$ using ten blocks and number blocks. At the top, the numbers 9, +, and 4 are written. Below them, nine white squares represent the number 9, and four black squares represent the number 4. A speech bubble points to one black square and says "1と3". Below the ten blocks, a speech bubble points to the first ten blocks and says "10になる". At the bottom, the calculation $10 + 3 = 13$ is written.

発表例

The presentation example shows a list of four steps for calculating $9 + 4$:

- ① 9は、あと1で10になります。
- ② 4を1と3に分けます。
- ③ 9に1をたして、10です。
- ④ 10と3で、13になります。

(5) 本時の展開 (2/10)

学 習 活 動	予想される児童の反応 (○) と支援 (☆)	評価規準 (評価方法)	
<p>1 前時の学習をふりかえる。</p> <p>2 問題を把握する。</p> <div data-bbox="151 383 560 584" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>社会見学で、ことみさんはどんぐりを9こ、けいさんは4こひろいました。合わせてなんこひろったでしょう。</p> </div> <p>3 めあてを確認する。</p>	<p>○どんぐりをどうやって数えようか。</p> <p>○かんたんだよ。</p> <p>○しきは、$9+4$だ。</p> <p>○答えは？</p> <p>○まちがえそうだね。</p> <p>☆計算をまちがえやすいことに気付かせる。</p>		課 題 把 握
<div data-bbox="151 808 1011 860" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(めあて) $9+4$のけいさんのしかたをせつめいしよう。</p> </div> <p>4 見通しをもつ。</p> <p>5 個人思考をする。</p> <p>6 集団思考をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え方を発表し、交流する。 <div data-bbox="197 1317 539 1621" style="border: 1px solid black; padding: 10px;">  <p>10と3をたす <u>13</u></p> </div> <p>7 分かったことをまとめる。</p>	<p>○ブロックを使って考えよう。</p> <p>○まる図をかいてみるとわかりやすい。</p> <p>○10まであといくつ？</p> <p>☆半具体物を準備しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数図ブロック ・おはじき <p>○ブロックで考えました。</p> <p>○さくらんぼで考えました。</p> <p>○まる図で考えました。</p> <p>「9はあと1で10です。だから、4を1と3に分けます。1を9にたします。10です。3残ります。合わせて13です。」</p> <p>☆考えた計算の仕方を、前で説明させる。</p> <p>☆友達の考えを自分の考えと比べながら聞かせる。</p>	<p>9 + 4などの計算の仕方を、数の見方(10といくつ)を活用して、操作や図を用いて考え説明している。(ホワイトボード、発表)</p>	自 力 解 決 全 体 交 流
<div data-bbox="236 1704 906 1783" style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>(まとめ) 10のまとまりにして、けいさんする。</p> </div> <p>8 練習問題をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $9+5=$ ・ $9+6=$ <p>9 ふりかえりをする。</p>	<p>☆学習を適用して問題を解かせる。</p> <p>☆ノートに学習のふりかえり(感想)を書かせる。</p>		ふ り か え り

(6) 板書計画

10/6

㊦ $9 + 4$ のけいさんのしかたを、せつめいしよう。

問題文

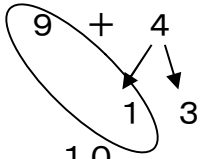
児童の考え①

児童の考え②

児童の考え③

児童の考え④

(しき) $9 + 4$



10
10と3をたす
13

㊦ 10のまとまりにして、けいさんする。